

なぜ新市場か？

1. 同時同量という特異な制約があること。

- 世の中にためられないものは他にもある（飛行機の座席、ホテルの部屋など）。しかし、需給バランスが崩れると市場そのものが崩壊してしまうのが電気の特徴。多分他にはない。

2. これまでの電源と異質な発電技術への移行期にあること。

- 具体的には、限界費用がゼロだが、コントロールが難しい電源が競争力を持ちつつあること。

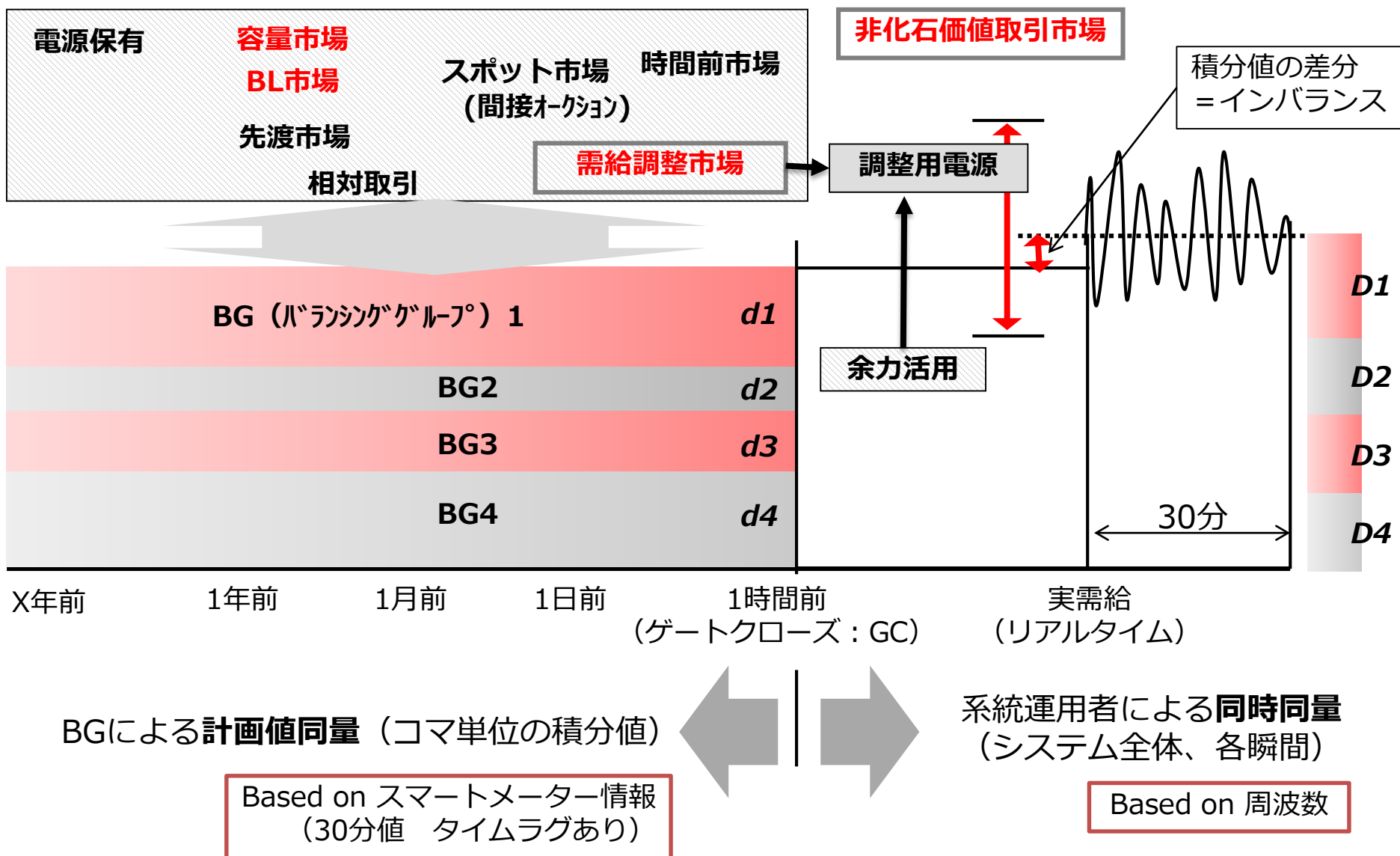
3. さまざまな政策目的を旧一般電気事業者に頼らず実現しようとしていること

- 震災前との対比で。発電・小売に規模の経済性がなくなったから自由化すると言いながらも、実際は規模の経済が残っていて、それ故に新電力のシェアは伸びない、というのが震災前の自由化。
- 国も、NTTと新電電の関係のような強い非対称規制に踏み込まない代わりに、公益的課題は一般電気事業者の善意に頼っていたのでは？
- 震災後は競争促進に大きく舵を切った結果、公益的課題は市場原理やインセンティブで誘導することになる。そのための市場が必要になるのは自然な帰結。

4. いわゆる「しがらみ」（議論が複雑になる理由）

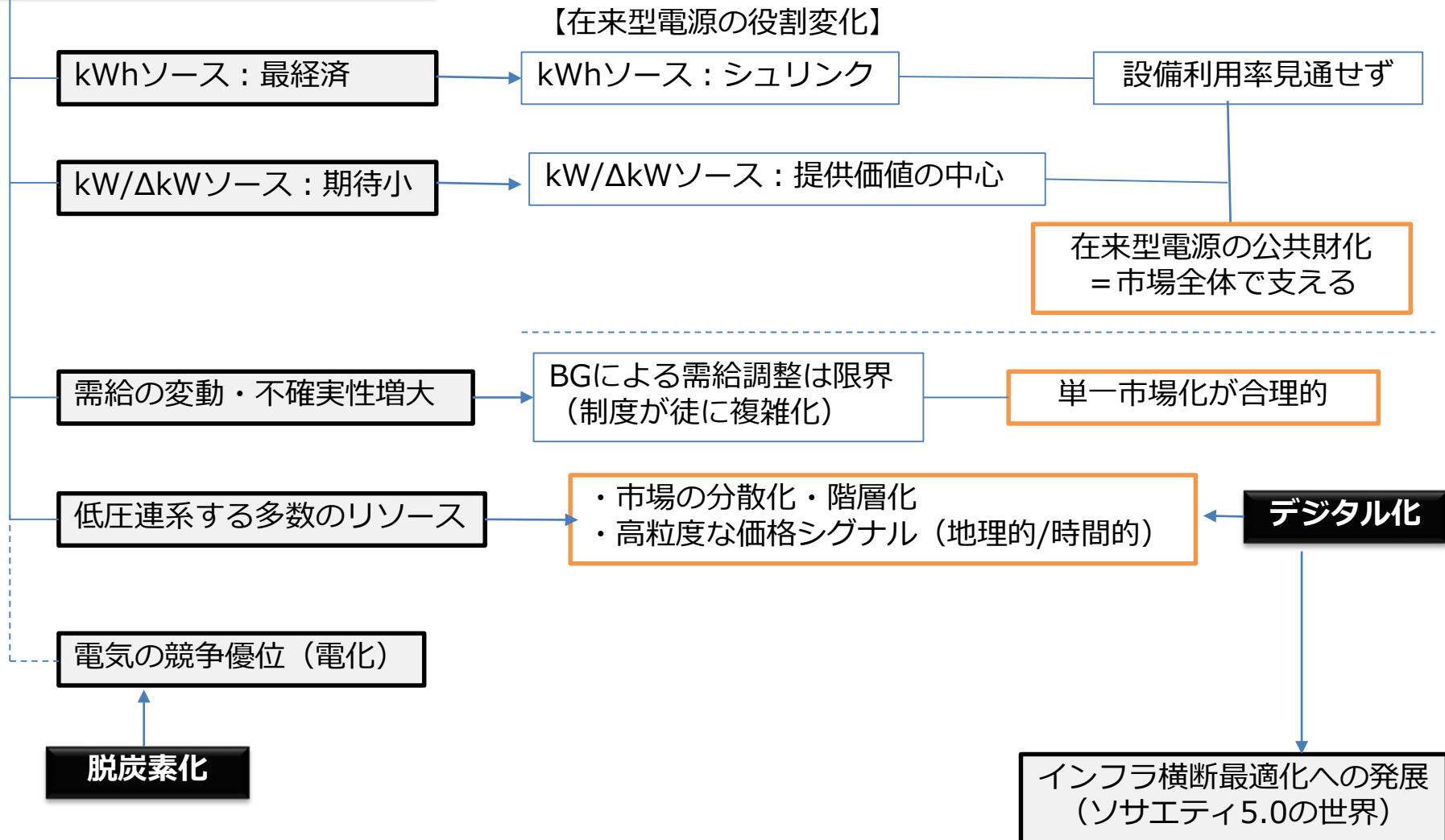
- 過去のレガシーを多分に引きずっている中での議論。

現在の電力システムにおける需給バランス調整

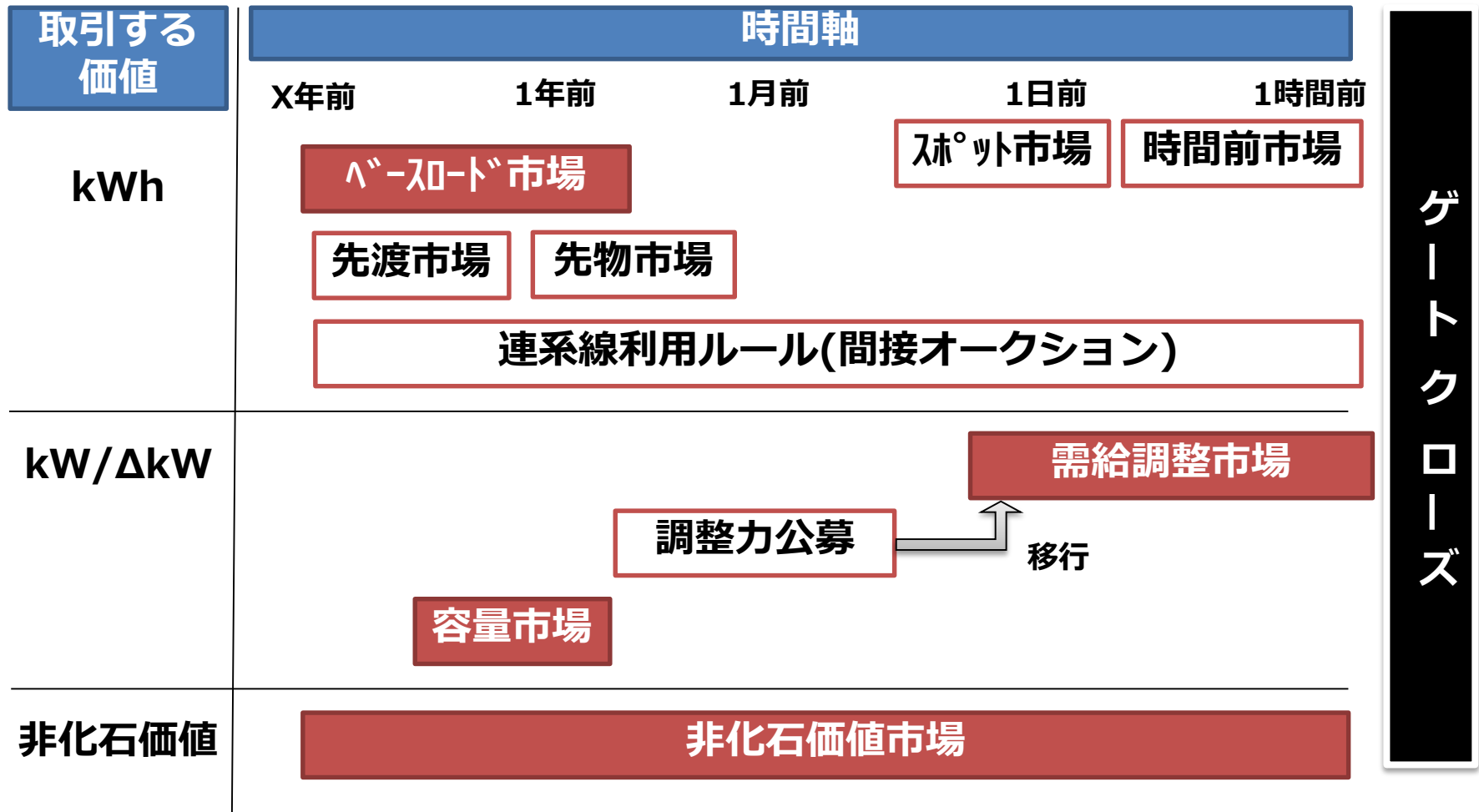


VRE主力電源化時代の電力市場の課題

VREの主力電源化（価格破壊）



電力関連の各種市場



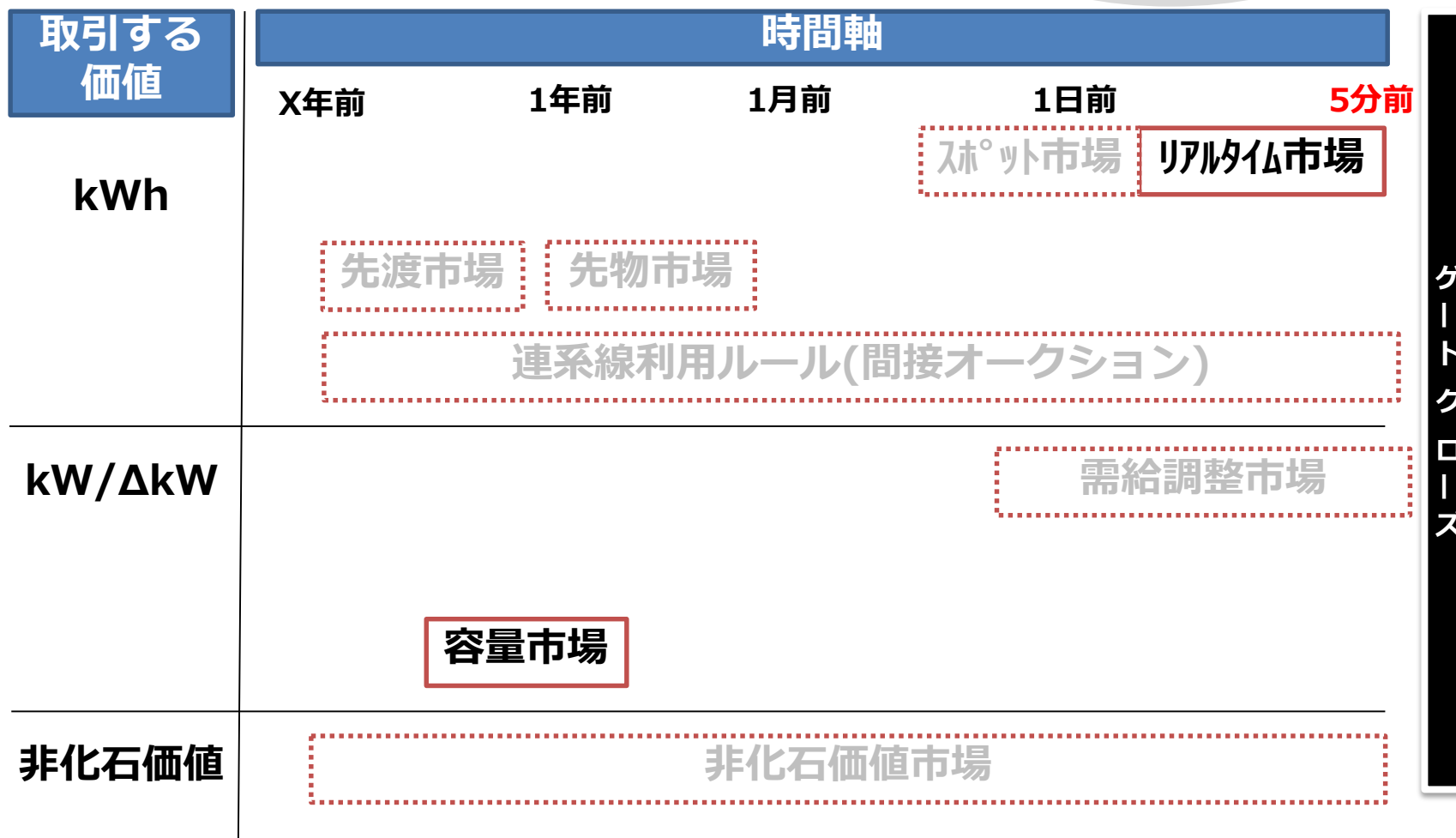
ゲートクローズ

電力関連の各種市場（2050年）

VREの主力電源化（価格破壊）

脱炭素化

デジタル化



ゲートクローズ